

港のたより～「名古屋港」

JLA 関西支部会が名古屋市内のホテルで開催された翌日、株式会社カヤック・サービス所有の大型観光バスを手配していただき、「名古屋港船舶通航情報センター」を見学させていただきました。Nagoya Port Vessel Traffic Information Center、頭文字「NAVTIC」を取って、通称「ナバテック」と呼ばれています。

名古屋港は名古屋市、知多市、東海市、弥富市そして飛島村4市1村に位置しており日本最大の面積を持つ港あります。

(陸域 4,200ha、水域 8,200ha で名古屋市全面積の 38%を占める) 昭和 26 年、愛知県と名古屋市によって特別地方公共団体が設立され、港湾開発や運営管理等の役割を持つ団体「名古屋港管理組合」として誕生しました。 現在、貨物の取扱量も日本一(08年/2.18 億t)で、鉄鋼・自動車産業を中心に日本経済と産業を支えています。 名古屋港には年間 40,000 隻以上の船が入港しており、そのうち約 9 千隻の船舶が外国船であり、「ものづくり中部」といわれるだけに自動車船、コンテナ船、鉱石船、原油タンカー、LNG 船などをはじめ多種多様の本船が出入りしています。

名古屋港は各「ふ頭」ごとに貨物を扱う岸壁が分かれており、



【飛島ふ頭のコンテナ岸壁】



【ナバテックの玄関前で】



【東海元浜ふ頭】

写真（上左）の「飛島ふ頭」は輸出用コンテナ船、「鍋田ふ頭」には輸入用コンテナ船、「南浜ふ頭」には大型タンカー船や LNG 船のターミナルが並び、写真（上右）の「東海元浜ふ頭」は鉱石船等を

受け入れる製鉄所が位置しており、写真（左）の「新宝ふ頭」には自動車積み出し岸壁となっていて、地の利を最大限生かした機能的な配置となっています。

写真（右下）出港中の大型コンテナ船の沖合いには主航路が 2 つに分かれています。安全対策上の航路規制により東航路（幅 500m）は 4 万t以上、西航路（幅 300m）では 2 万t以上の船舶は本船同士の交差は出来なくなっています。 東航路では -16m まで浚渫



【新宝ふ頭】

されており、その土砂は東西航路の間にある中州（ポートアイランド）に揚げられています。その人工島は未だ所有者が決まっていません。

さて、この度見学させていただいたナバテックは「金城ふ頭」の南東端に位置した三角形をした建物で、10 階が展望室となっています。8 階に「ナバテック情報システム室」があり、名古屋港に入出航する、全ての船舶の運航を効率的にできるよう集中管理して、港湾利用者に情報を提供しています。8 階に「ナバテック情報システム室」があり、9 階には第 4 管区海上保安本部の名古屋港交通センターが入っていて、船舶の管制業務を行なっています。

もう一つのふ頭が「ガーデンふ頭」…海洋博物館や水族館等がある緑地帯で、市民の憩いの場所として親しまれています。



【ナバテック情報システム室】



【出港中の大型コンテナ船】